

第7日

平成27年3月2日（月）

午前9時30分開会

○議長（手嶋源五君） 皆さん、おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

なお、本日の出席議員は20名で会議は成立いたします。

本日の議事日程については、お手元に配付のとおりであります。御了承願います。

日程に従い、2月27日に引き続き一般質問を行います。

それでは、最初に12番桑野博明議員の質問を許可します。12番桑野博明議員。

（12番桑野博明君登壇）

○12番（桑野博明君） 皆さん、おはようございます。3月定例議会の一般質問2日目でございます。一番最初に当たりまして、12年間、議員生活をさせていただいてますが、多分、朝一発の一般質問は初めてかなというふうに思っております。まだまだ頭の回転がうまくいかないところがあるかもしれませんが、喫緊の朝倉市の課題について、それから10年後、20年後の朝倉市の課題について、市の体制並び今の問題点をどういうふう乗り越えていくかということを一般質問したいというふうに思います。

それから、総務部長を初め、退職される職員の皆さん、本当に長い間、朝倉市の行政に携わっていただきまして、本当に感謝申し上げたいと思います。ぜひ健康に留意されまして、一市民として積極的に朝倉市の応援をしていただければというふうに思います。

それでは、質問席より質問を続行させていただきます。

（12番桑野博明君降壇）

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） では、早速質問に入りたいと思います。通告どおりに観光行政についてをお伺いをしたいと思います。

市長の施政方針の中にも観光、交流につきましても云々、それから外国からの観光客を含めた交流人口の拡大、観光拠点におけるWi-Fiの環境整備、観光アプリケーションの整備という文言がございました。それから、去る原鶴の原鶴温泉の組合の賀詞交換会の中で、市長の御挨拶の中で、原鶴やその他の観光拠点におけるWi-Fi環境整備を行うというような旨の発言が挨拶がございました。

今、Wi-Fiと観光行政というのは大変絡みがあって、いろんな行政の中で検討されてるというふうに伺ってるんですが、朝倉市ではこの観光行政の中で、Wi-Fiと観光アプリをどういうふう活用していこうと、どういった目的でやろうかというのがまずお伺いをしたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 今、桑野議員のほうから質問がありましたWi-Fiの整備、

それから観光アプリケーションのどんなふうな戦略がいいのか、どんなふうに進めていったらいいのかということでございます。Wi-Fiにつきましては現在スマートフォン、あるいはタブレット端末等で日本人はもとより、外国人の方の所持率というのは物すごく高くなっております。Wi-Fiというのは、そのエリアに行ったらインターネットの機能が無料で行うことができます。

特にそこで27年度構築をしようとしてます朝倉市の観光のアプリケーション、朝倉には例えば観光の名所、あるいは宿泊、あるいはグルメ、いろんなものをアプリの中で紹介をしていく、それを当然スマートフォン、タブレット端末を持ってある方たちについてはダウンロードしてもらいたいと。Wi-Fiの機能があるエリアにおいては、そういう紹介、あるいは周知をすることによって、より効率的に情報の発信の一助にしていきたいという考えでございます。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 今の答弁の中でいきますと、全体的にオブラートで包んだような感じで、こんなことをしたいというようなことだけであって、例えば交流人口のこういったのをターゲットに、中心に徹底的にやりますよとか、そういったことが実はないんですね、そういうふうに感じました。

まず拠点は、今回のまち・ひと・しごと創生及び地域住民生活等緊急支援交付金の中では、実は拠点というのがなくて、ルーターを原鶴温泉に出しますよと、ぐらゐの実は補正予算なのかなというふうに感じたんですが、市長が発言の中であった、朝倉市全体の観光拠点到Wi-Fiをつなげられるようなルーターなり、どういったのを設置するというようなことがあったんですが、それはどうなんですか、やるんですか、やらないんですか。

○議長（手嶋源五君） 総務財政課長。

○総務財政課長（堀内善文君） 市長が申しあげましたそういう市全体のことにつきましては、内部では今検討しております。27年度に向けましては、観光を優先的にしまして、旅館とか小売店とか、そういうところで無料のWi-Fi環境をつくるという形にしておりますが、全体的なものとしましては、市の公共施設、例えば庁舎、支所、図書館とか、それとか秋月の郷土館とか、そういうところでもWi-Fiを使えるような環境を今検討してるところでございます、その手法をどのようなやり方とするのか、また、それをした後にどれだけの維持費がかかるのかという形で、まだ27年度予算には計上させてもらってないという形で、将来的にはそういう大きな流れは考えてるところでございます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） まず考えてるということは、一歩進むのかなというふうには思うんですが、今までの朝倉市、それから旧甘木、それから朝倉市のこういったいろんな新たな事業に関して、最初につかかりはそういった形で、行く行くは頂上の山を目指します

よというふうになってるんですが、ほとんどの事業が取っかかりで終わってるんですよ。そう思いません。

一番、私は典型的に人口減少の中でどうこうというときに、いろんな人口対策に対してはいろんなことをやってきてます。インフルエンザであるとか、固定資産税を下げたりとか、いろんなことをやってるんですが、誰も一致団結してこんなことをやってるということを誰もPRをしてないし、要は頂上を目指してるんですが、おのおの1人ずつ登ってるような感じの実は策しかやってないというのが、よく感じる場所があります。

それから、実は職員の方といろいろ話をする中で、光ファイバーが朝倉市というのは万遍なく通ってるんですね、どこでも光が使える。実はそんな市町村ってないんですよ、全国の中で。それは市長の中で企業誘致のためのメリットとするとか、どういったことがあるということになってるんですが、じゃあ企業誘致のための本当にそれが殺し文句になるかどうかというのは、要は僕は職員の方も余り知らないんじゃないかなと思うんですよ。実は本当に光ファイバーがこれだけ万遍なく届いてるというのは、朝倉市は本当に全国の中でもすばらしい市です。それをじゃあどういうふうによく使うか、目的は何だったのかというのが、いつの間にか何かつけることが目的になってるような気がするんですね。

ですからもう1回、聞きますけども、光があるからWi-Fiが繋げるんですけど、Wi-Fiをして、今後27年度はフリーのWi-Fiを拠点に持っていきたいということを検討すると言われました。じゃあそれを使って、じゃあ観光アプリとどういうふうにして交流人口をどういうふうにするかということが、要は目的がもうあるんだろうと思いますけど、もう1回、目的を聞きます。

○議長（手嶋源五君） 商工観光課長。

○商工観光課長（石井清治君） 無料のWi-Fiが構築された暁には、一番わかりやすいのは、市内いろんなところでコンビニエンスストア等がございます。特にそのエリアでは無料で既にWi-Fiを開放しております。そのエリアに行ったタブレット、もしくはスマートフォンを持ってある方たちについては、自動的にその検索をすることに対してコンテンツ、いろんなその店舗が持っているコンテンツを情報発信をしまいたします。ですから、我々観光アプリもWi-Fi機能が構築された暁には、朝倉の情報をその必要な方たちの中に、本当はインターネットに接続したいんでしょうけど、最初の入り口として朝倉の情報をどんどんどんどん出していくと、そういうやり方。

あくまでもそのじゃあ何を載せるのかというのは、先ほどちょっと触れましたけど、GPS機能を加味したルートの検索、あるいは今現在、三連、バサロを中心としてやってますネット通販の部分までも、そのアプリケーションの中には検討の1つとして考えるところがございます。そういったところで総合的に観光の情報、あるいはルートの検索ができるようなところに対しまして交流人口の増大を図っていききたいという思いでございます。

以上です。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 今の答弁も余り具体的になってないんだと思うんですね。私は例えばバサロであるとか、三連水車であるとか、ピーポートであるとか、今度の秋月資料館であるとか、杉の馬場であるとか、そういった観光地にルーターを置いて、そこに来たお客様がフリーのWi-Fiを使えますよと。そのWi-Fiを使ったら、課長が今言われたように、今コンビニなんかで敷地内に行けば、実はフリーのWi-Fiが使えます。利用されたことある方、いらっしゃると思いますけれども、そこを開くと、まずコンビニのホームページみたいなのが開きます。これ、ただですよとなっています。その一角にインターネットを利用できますよというマークがあります。そうすると、そこを押すと、実は無料のWi-Fiでインターネットが自由に使えるというのが、実はそういうふうになっています。

今言われてるように、観光地なりどうこうしたときに、それを積極的に使えますよと言っても、観光アプリとWi-Fiが一緒に、今のコンビニで使われてるようにならなないと、観光アプリを使おうと思っても、さっきの答弁ありますけれども、観光アプリのソフトをダウンロードせないかんわけですね、ダウンロードしたらどこでも使えますよと。でも、朝倉の観光アピールをする観光アプリというのが周知されてなかったら、誰もダウンロードしてなかったら、誰も使えないんですね、観光客の方は。特に外国の方でもそうですが、使えませんよね、連動ってないじゃないですか。

だからそれを今度、今後検討されるということなんですが、やるという方向じゃないとうまくいかないと思うんですが、財政面もあるでしょうから、先行投資という形の中で、総務財政課長としては今後の朝倉市の交流人口ふやさないといかんという大きな課題がある中で、それを最初から一緒にしないと、多分どれぐらいかかるんですかね、一緒にすれば何千万円かかかるのかもしれないかもしれませんが、それを最初からやらないと。今後検討するということなんですが、もう1度、答弁を。

○議長（手嶋源五君） 総務財政課長。

○総務財政課長（堀内善文君） Wi-Fiの整備というのは、観光情報を発信するというのも1つでございます。まずWi-Fiというのは広い意味がありまして、市民の皆さんに使っていただくというのも1つの目的でありまして、その中の1つの大きな目的が観光に来られた方の情報発信というのがまずございます。

そして、将来はやはり朝倉市にも観光地、それから公的な施設、人が集まるようなところには、そういう無料のWi-Fiスポットは必要だという判断をまずしてとてございまして、今回先ほど申し上げました、将来的にはそういうことを行いますが、維持的にどれぐらいそうしたときにかかるのかというのが非常にまだ精査ができてない状況でございまして、今回につきましては、まず観光を特に重点的に先行していきましようという形で、ある程度、それほどの投資的なお金がかからなくてできるような、早く観光客に情報を与えるのにはどうしたらできるのかということをしてまして、こういうやり方をしておりまして、

将来的には議員が言われるようなことまでなるのかというのは、もう少し検討させていただきたいというところでございます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 多分、総務財政課長の中では、やっぱりお金の面と、いいのはわかっちゃってどうこうということだろうと思います。それが気になってどうこうだろうと思うんですが。

副市長にお伺いします。副市長はコンビニでWi-Fiというのが無料で使えるというのがありますけれども、まず体験されたかどうか、お伺いします。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） お答えいたします。私、恥ずかしながらスマートフォンを持っておりませんので、体験はしたことございませんが、インターネット等で、例えば大手コンビニチェーンのホームページ等でそういった仕組みがあるということは拝見いたしました。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 体験したらよくわかると思うんですが、実は本当にうまくできております。これはそのコンビニのPRもうまくできてるし、例えば今後どうするかというところまで、実は会員募集とか、いっぱい展開ができるようになってるんですね。ですから、簡単にサービスでやってるんですけども、要は何らかの利益を取ろうという感じであります。

僕は行政もWi-Fiというのはそういう形で考えたほうがいいのかなというふうに思っております。市民の方がWi-Fiをただで利用しよって、市民サービスですよって、市民サービスには僕はならないですよ、拠点に行かないとだめなんだから。それはどこでも、朝倉市の中でフリーのWi-Fi、いっぱいありますよ。調べたらいっぱい出てきます、ただで使えるというのが、フリーのやつが。それはもう市民の方、わかってある方、コンビニの駐車場にとめて一生懸命やられてる方はいらっしゃいます、高校生であるとか何とかというのも、それはもう全部そうです、フリーのWi-Fiを使ってる。ですから、それはサービスにならないという状況なんですよ。

ですから、三連水車に行った人がコーヒーを飲みながら、じゃあ次はどこに行こうとか、施政方針ですか、何かありましたけど、スイーツの何とかとかいうのがありますよね。それから、例えば朝倉はラーメンが有名とか何とかって、じゃあ昼飯はどこに行こうとかいうのを、実はそういうふうに検索してある方が結構おるんですよ。さっき言ったように、Wi-Fiだからできるんですけども、アプリが一緒になつとかなないとできないんですよ。だからそれはもう次のもんなんですよ、観光行政をやりようとしたときには一緒じゃないと朝倉市の観光行政にはプラスにならない。

光と同じで、光も市民のためにはなってます。でも実際には本来なら朝倉のPRをやる

うと思ってした事業なんだけれどもプラスにはなってない。朝倉市に住めばこういったのが利用できますよということになってると思いますけれども、じゃあその企業誘致のために全面的にいくとか、実は近隣の市町村の中で、大きな工場が来てるところもありますけれども、直接光で本社と結んでるというのはかなり少ないんですよ。南の大きな市がありますけれども、そこに某車メーカーが来てますけれども、そこも光とは本社とは直接やってません、役場経由でやってます。ですから、そういった意味じゃ光というのはすごいという、朝倉市はすごいということは僕は認識しとってほしいんですよ、そういうふうには実はなってんですよ、朝倉市ってすごいいいところなんですよ。

今度Wi-Fiもいいことをやろうとしてるんですよ。ところが別々やろうとしてることに、僕は大きな問題があるし、今後それがさっき言った本来はこういうふうにしたんだけどというのが、途中で僕は終わりそうな気がするから、最初から少々のお金を借りてもそこにすべきだろうということで実は質問をしています。

もう1回、副市長、その辺はどうですか。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） まず初めに、光ファイバーの話がございました。これはおっしゃるとおり、朝倉市にとって最大の強みではないかというふうに思っております。整備自体が目的ではなく、やはりそれを最大限活用してこそ初めて効果を発揮するものだというふうに思っております。

そして、先ほど総務財政課長のほうからもお話ししましたが、今回の地方創生の事業でございますけれども、実際まだ対象事業がどういう分野なのかという詳細がまだ固まってない部分がございます。それもありまして、まだ具体的なそういう事業のスキーム、構築がまだはっきりできないというのが実情でございます。

その前提でございますけれども、今回のWi-Fi環境の整備、そして観光アプリの作成ということで予算計上させていただいておりますけれども、これらのいわばハード面、そしてソフト面、そしてダウンロードも含めてですけれども、これらが相まって初めて観光行政において交流人口の拡大に資するのではないかというふうに考えております。

今回はその地方創生という一環ではございますけれども、こういった光ファイバーですとか、あるいはWi-Fi環境というのがさまざまな事業との関連性、そして相乗効果を生み出すように、他の分野で生かせる部分はないかと、そういった面も十分考慮しながら考えていく必要があると思っております。

今回、そのように国の対象事業等がまだ詳細固まってないということもございますし、また、そもそもその技術的な面でそういった可能性があるかということも十分検討していかなければいけないと思っておりますので、今議員御指摘の視点については、大変重要な視点ではないかなというふうには思っております。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 一緒にするということの技術的な面というのは、ほかの市町村で実際にやっているとあるんで、多分解決してる問題だろうというふうに思っております。

私が調べたところによりますと、例えば近辺では柳川であるとか、それから日田であるとか、ちょっと有名なところでは、北九州の夜景アプリとか、そういうのはあります。大変これは有効に活用されてることだろうというふうに思っておりますので、ぜひそれはやっていただきたいと思えますし。

実はその観光アプリの中で、今やられてるのが、観光地と観光地を結ぶ、要はナビをしてくれるんですね。今ここに、三連水車にいますよって、それから違うお店に行きたいと言ったときには、実はアプリの中でナビをしてくれます。ですから簡単にいけるようになってます。それから、例えば観光地も入れますし、例えば食事どころとか何とかってありますけれども、そういったところも全部登録できますので、すぐいけるというような状況になってるかと思えます。それから、さっき言ったスイーツスタンプラリーとか、これもその中でも展開できるようになる。

今、一番盛んにこの観光アプリの中で言われてるのが、実は避難所を実は登録しとけば、さっき言ったナビができるんで、外国の観光客の中でも、もし何かがあったときには、その避難所に誘導できるという実はナビゲーションがあるというふうに聞いております。そういうのを活用すれば、朝倉市ってもっともっといろんなPRが、観光地としてのPR、それから交流人口をふやすということには大変あると思うんで、ぜひアプリをダウンロードせずの状態でもWi-Fiを開けばインターネットにつながりこともできるし、もちろん朝倉市の観光アプリというのが開けますよという状態に、そこで切り分けをするという状態にすることが私は朝倉市のために一番のメリットだろうというふうに思っておりますし、それが財源の有効活用だろうというふうに思っております。

27年度の予算で難しいのかもしれませんが、補正予算でも組んでいただいて、同時に立ち上げるということが一番ベストだろうと思っておりますので、ぜひそれはお願いします。朝倉市のためにお願いします。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 観光行政だけではなく、先ほど防災にも活用できるというふうなサジェスションもいただきました。他の分野でも最大限活かせる可能性があるんじゃないかと、そういう視点を十分持って、今後検討してまいりたいというふうに思えます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） ぜひ10年後、20年後の朝倉のためにもやるべきだろうと思っておりますので、よろしくをお願いします。

続きまして、人口減少対策ということにしてはおりますが、先ほど言いましたように、実は人口減少対策の中の、私は施策に対してどうこうではありません。いろんな施策を今やられてるんですが、それがさっきのほうと一緒にですが、朝倉市のPRとして十二分に周知

ができてるのかなと、近隣であるとか市民に対してできてるのかなというのがあります。森田市長になってインフルエンザであるとか、中学校までの入院の補助金であるとか、固定資産税を下げたとか、実はそういったいろんな、これは人口減少のためといいますか、定住人口をふやすのための策としてあるかというふうに思います。もちろん企業誘致もありますし、子育て支援の学童保育を充実するであるとか、今後されると思いますけれども、空き家対策であるとか、朝倉市の自然とか歴史をするとか、観光道路として使うようなインフラ整備をするとか、いろんなところで朝倉の定住人口をふやすための策はされております。

全職員の方が皆さん合い言葉みたいに定住人口をとすることは言われてるんですが、ずっと言われてるんですけど、これは社会の中でもう情勢として仕方ないのかなという面はあるんですが、なかなかじゃあほかの地域の方とかが聞くと、朝倉市はこうらしいねというのは余り聞かないですよ、ほとんど聞かない。いや、隣町がいいよとかいうのはよく聞くんですけど、何かそういうふうに感じるどころがあるんですが、いつも言ってるようにPRがちょっと足りないのかなというのがあると思います。

市長も、それから総務部長もよく言われる、選択と集中ということが言われるんですが、私はいろんな事業をやってるんですが、僕は集中というところがないのかなというふうに最近感じるようになりました。それは朝倉市の行政組織の中の集中がないのかなと。総務部長は全職員営業マンだというふうに言われるんですが、総務部長みたいな人が450人おればすばらしい市だろうと思うんですが、そういうわけには組織の中、なかなかいかないという実情があるかと思えます。そういった意味では、やっぱり組織の中でどうするかということをやっぱり考えていかないかんのかなと。多分職員の中でも頑張ろうとか、やりたいというところはあるかと思えますけども、組織の中で物申されるとなかなか言えないという状況があるような私は気がいたします。

27年度、また新しく組織機構改革をされるようですが、そういうふうに私は感じてるんですが、その感じに対して副市長、どういうふうにお感じでしょうか。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 選択と集中ということでございます。私どもは通常、政策決定等、あるいはその組織を改編したりする場合には、まず重点的な分野として、その目的なり効果、目標値、そういったものを定めた上で、それを必要な事業と決定すれば重点施策というふうに位置づけて優先的、計画的に実施していくということにしております。

通常、そういった施策全般を体系的に整理したものが総合計画だというふうに理解しておりますし、特に今般、地方創生の動きを踏まえまして、特に定住人口の拡大、あるいは交流人口の拡大に資する事業を選択、集中して、今回の総合戦略に取り組むということでございます。そのためにも組織の面といたしましては総合政策課という課をつくって、庁内横断的に施策の取りまとめ、調整を行うという取り組みを進めようというものでござい



ます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） その組織機構の分に関しては、よく答弁の中では同じような答弁しかできないのかなというふうに思うんですが、もっと抜本的な改革をしないと、僕はこの危機は救えないのかなと。危機感を感じてらっしゃらない方はいらっしゃらないとは思いますが。

やっぱりバブル時代に実は民間の企業が言われてたのは、改革ではもうぬるいんだと、変革をしなくちゃいけない。変革をしたら、職員なり社員は痛みを感じるのは当たり前だ。でも、これを乗り切らなくちゃいけないということで、改革じゃなくて変革と言われてました。そういった時代がありました。

朝倉市も財政推移とか何とか見ると、そんなに安易に構えておけるような自治体じゃないというふうに思っております。もう今から危機感を持ちながらやっていかななくちゃいけないような地方公共団体に僕はあると思います。

そういった中では、今まではこういった組織の中でよかったかもしれないけど、もうちょっとアクセルを踏まないかんよという時代に来てるのであれば、私はもう変革の時代に来てるのかなと。ですから、少しの改革だけじゃなくて、抜本的な、組織的な改革をしないと集中と選択ができないなど。集中と選択ができないとどういうふうになるかという、私はスピード感がなくなると思います。市長が施政方針の中でスピード感というのを今度入れられてます。スピード感をするためには、僕は集中と選択ができないといけないと思ってます。集中と選択はやっぱり組織の中で、そういった組織をつくるのが大切だろうと。

12年間議員をさせていただいておりますけれども、これはすごいという集中と選択というのは、僕は余り味わったことがございません。地道に進んでることはあると思っておりますけれども、何かそういうふう感じてるんですよ。

ですから抜本的に、僕はどこそこの市町村のやり方がいいとかいうのは思いません。朝倉市独特のやり方というのが僕はあるんじゃないかなと思います。いろいろあるかと思いますが、その辺を含めたところで、この組織に関しても書いてあるのが、今後いろんなことで変えることもありますよというふうには私は読み取れましたんですが、ぜひそういうふうには、私はそういうふう思ってるんですが、私の感じとか、私の思いを聞いて、市長どうですか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 集中と選択ということがよく使われます。1つ、これは行政のあり方といいますか、実態としてありますのは、スピード感という言葉もよく使いますが、行政の中でのスピード感と、例えば桑野議員は議員になる前、民間企業にいらっしゃいました。民間におけるスピード感って、それはスピード感の感覚が全然違うというのは私も

よく分かる。行政と民間、何が違うかという、民間企業というのは利益を追求するのが本来の目的です、はっきりしてるわけです、1つに。ですからそれに向かってみんなが行く。

じゃあ行政というのは何かというと、基本的には市民がいかに幸せに生活できるかということをやるのが行政です。そこには市民一人一人がいろんな価値観の中で、5万数千名の市民がこの朝倉市には住んでらっしゃいます。ちゅうことは、いろんな違う価値の中で、それをいかに行政がまとめていくかということでもありますので、非常にスピード感をというのは、一般の企業と同じような感覚で捉えられると、ちょっとそれは相当行政は遅いと言われるかもしれませんが、その中でもやはり、その範囲の中でいかに行政がスピードを持ってやるかということは大事なことでありますんで、そういった面を、最初ちょっと言いわけみたいなことを言いましたけども、そういった面で、やっぱり今後ともやっていかなきゃならんという思いを持っておりますので、ひとつ御協力をよろしくお願い申し上げたいと思います。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 市長の言われたのよくわかります。仕事の中では、私、ルーチンというか、日常の今の市民の安心・安全をすることもあるかと思えますけれども、10年後、20年後の朝倉市を考えたときの僕は仕事があるだろうというふうに思います。僕はその10年後、20年後の朝倉市の仕事というのは、集中と選択とスピード感ですよという話を今してるつもりであります。じゃないと多分、人口減少の中で朝倉市だけ社会増減がプラスに転換するとかいうのはなかなか厳しいことだろうというふうに思います。いかに現状維持するかとか、いかに朝倉市の魅力を感じて、じゃあ定年後はもう1回、帰ってみようかなとか、それから途中下車で朝倉に住もうかねとかいうふうな形は、やっぱりいろんなPRをするということが一番大切だろうと思います。ルーチンの仕事というのは、通常の仕事はもちろん今までの市民の安心・安全を確保するということでありますが、今後市民の安心・安全確保するためには、どうしても人口減少なっちゃいかんのだという片や問題点があると。そっちのほうを僕はスピード感を持ってやるべきだろうというふうに思ってるんです。

ですから、市長が言われるのもよくわかるんですが、私は半分の、今の問題に関する対策としては早目早目にやるべきだろうと、懸念される問題に関しては、という気持ちで言っております。

そういった中で、例えば職員の方とよく話をすると、こういった言葉を聞いたことがあります。立場が変われば言い方が変わるということ。今は何とか課の何とか係長だからこういった発言をしてますけど、今度は違うとこの課に行って、何とか係をしたときには、ちょっと内容が変わりますというようなことを聞いたことがあります。これは余り大きい声で言っちゃいかんのかな。そういったことは聞いてあるんで、本当に組織の中で動いて

るかどうかという、朝倉市のために全職員一丸となってならなくちゃいけないんですが、自分の立場を考えるとということがあるかと思います。ぜひそういったことのないような形でやるべきだろうと思いますし。

集中と選択をするためには、私は提案といいますか、あれですが、人口をふやそう課みたいな、実は担当課をつくって、いろんな定住人口をふやすための策を今まで朝倉市はやっておりませんが、じゃあそれをいかにPRするかとか、交流人口でいかにPRするかというような、僕はそういった課をつくって、朝倉市をPRするというのも大切なことだろうというふうに思っております。

前回の一般質問だったと思いますけれども、営業課をつくらうという、同じようなことなんですけどね、言ってることは。ですから職員じゃなくて、やっぱりいろんな市民の中で観光行政に、観光行政というか、観光業界に強い方もいらっしゃるし、いろんな方、いらっしゃるというふうに思いますが、嘱託職員みたいな形で、皆さんから市民からお手伝いをいただきながら朝倉市をPRしていくという部隊も、そういったことも必要だろうと思います。

それから、今プロジェクトで盛んにされてるところがあります。国民健康保険のいかに健康増進をして減らしていこうかという、実際に保険年金、健康課、それから介護福祉もそうですかね、そういったところがプロジェクトをやってらっしゃるんですが、それはなかなか効果があるような気がしてるんですが、それが今度は逆に表面に出てないんですね。

ですから組織の中で、朝倉市にはこんなプロジェクトがありますよという認知されたプロジェクトというか、例えば担当課は無理だけどプロジェクトをつくりますよと、それにはプロジェクト運営に関して、例えば50万円の予算をつけますよ。そのかわり、そのプロジェクトは必ずある時期になると、こんなプロジェクトをやって、こういう成果が上がりましたということを要は発表せないかんという、そういう形の中で、僕はそういった認知されたプロジェクトをつくることもいいのかなというふうに思ってるんですが、ちょっとかけ離れた発想だろうと思いますが、副市長どう思います。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） そもそもその人口減少の問題でございますけれども、この件に関しましては、ほとんど全ての課にかかわる問題ではないかなというふうに思っております。そういうこともございまして、今回の予算編成におきましても、私のほうから特に各課それぞれの業務が通常ありますけれども、それにプラスアルファの人口減少を食いとめるためにはどうしたらいいかという視点を十分検討するよということによって予算編成時には指示をしたところでございます。一ひねり、二ひねりして、いかに自分がやってる今の事業に加えて人口減少を食いとめるというプラスアルファを加味するよということによって、今回予算編成に臨んだところでございます。

それと、その組織に関してでございますけども、御承知のように限られた人員の中でございますので、できましたら、そういういろんな専門に特化したような担当課なりがあればいいのかもしれませんが、限られた人数の中でございます。その中で先ほどおっしゃったような、例えば保険年金課と健康課で健康維持、それからあわせて医療費の抑制を図るといふようなプロジェクト、そういったものもやっております。今ある組織の中で、そういった柔軟に対応できるような、いつも言っておりますけども、簡素で効率的な組織づくりとしたいというのが基本的な考え方でございます。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 仕事をやるとか、物事をやるに関しては、私はチームというのは素晴らしいことだろうと思うんです。1人で一生懸命やっても、なかなか届かないところがあるかと思えます。ですからチームでやるというのはいいことだろうと思います。

先ほど副市長言われたように、定住人口をふやすための策としては、いろんな課で、全課でやられておりますが、誰も束ねる人がいない。1本の矢は持っているんですが、20本も30本もの矢を束ねるようなところがないんで、先ほど言ったように、いろんな朝倉市はいいところがあるんですよ。でも誰も、誰もじゃないですね、なかなか浸透できてないというところは、私はそういったチームとか、そういったのが何か見えないのかなという、見えないのというか、何か弱いのかなというふうに思っております。

私は行く行くは、例えば何とか係は3人で仕事をしとるけれども、3人みんなが同じような状況になれるという、そのチームワークで仕事をしていくということが、今後僕はあったらいいなというふうに思ってます。課全体じゃなくて、係ぐらいのことであれば、例えば隣が何をしてるかとか、通常の仕事はどういうふうな形をやってるかというのを覚えるとか、例えばその係でマスターファイルを用意しとけば、誰かが休んでもマスターファイルを見れば全てが仕事がわかる。いや、きょうは休みなんですよということが言いわけできない、要はこの書類とこの書類がありますということがわかるように、マスターファイルをすることが私はチームワークにはつながっていくというふうに思っています。

ISOとかいうのは全部マスターファイルで、全て誰が受けても同じようなサービスができますよというところがあります。ぜひその辺も適用というか、組織の中に入れていただければ、私はもっともっと朝倉市のいいところが市外なり、外に出て行くような気がします。ぜひその辺も十分に検討されて、プロジェクトが認知されるプロジェクトになるとか、ぜひその辺も考えてほしいなと思うんですが、市長いかがでしょう。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 言われてることはよく理解できます。ただ、一方、行政の場合は、職員の場合は通常の業務、もう御存じであろうと思いますが、そういったものもむしろ今は量的にふえてきてます、いわゆる権限移譲等で。そういった中で、一方では通常の業務をしなきゃならん人数が相当ふえてる。そして一方では、将来の朝倉市のため何を、例え

ば人口減少なり、何をするかということできっちり取り組んできてやっていただいていると思っております。

議員はこの前、私ども職員の提案制度でいろんな職員のほうから提案がございました。その中で大賞をとったのが都市建設。これはやはり自分たちの職場の中の仕事の範囲の中で、どういうことをすれば朝倉市の人口減少に歯どめがかけれるのか、余地があるのかということをテーマに発表してくれました。ほかの課もいろんないい発表がございました。そういったものをやはり生かしていきたい、その職場の中でそういったテーマ、意識を持って仕事をするということが大事なことでありますので、それを生かしていきたい。

束ねるところがないと言われましたが、束ねるところはあります、私が束ねなきやいかんということです。ないことはございませんので、そういうことだろうというふうに思います。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） もちろんそうです、市長が束ねないかんのですが、市長が全てをどうこうというのは無理ですよ。トップセールス、トップセールスと僕はよく言われるんです、トップセールスは最終手段ですよ、前段でいろんな協議をしながら、あとは社長お願いしますって、お膳立てはしてますよというところでトップセールスですよ。トップセールスで一生懸命言ったって、ああ、わかりました、わかりました、終わってしまいますよ。

ですから、実は実務団体の束ねるところがあって、それを最終的に市長に、こうやってやりますとか、こう言ってどうですかとかいう話をして、最終的には首長に乗り出してもらおうというのが僕はトップセールスだろうというふうに思っています。トップセールスが最初から行くわけじゃないですよ、それはもういかんって、それはというふうに僕は思います。そういった意味では、僕は本当に束ねるところが必要だろうというふうに思っているんで、市長のそういった気持ちはよくわかるんですが、市長の行動を効率的によくするためには、私はそういった束ねる、組織の中でどっか束ねるところが必要だろうというふうに思っておりますので、ぜひ今後はそういった組織になればというふうに思っております。

チャレンジエキスポ朝倉の話が市長から出たんで、ちょっと通告にないんで私の思いを言うだけです。定住人口もそうですが、私はもう1つ、目を引いたのが、健康診断の一括受診の朝倉診療所でやりましょうというやつです。これは何で今までできなかったのかなと思って、ずっと考えました。今までバスが来て、その中でやってますよね。再検査があったら、じゃあどっか行きなさいよという通知が来るとは思うんですが、発表の中でよかったなと思うのが、要は診療所で全部、朝倉市民は受けましょうみたいな感じでやって、早期発見、早期治療というのは、診療併設型のところで健康診断を受けるのがいいですよと書いてある。ああ、そうやなとすぐ思いました。僕はそういったことがいい提案があると思うんで、ぜひ、答弁あれですが、ぜひ展開ができればというふうに思いました。す

ばらしい提案だろうというふうに思いましたので置いときます。

そういった意味でいろんな組織の中で、個人でも一生懸命頑張ってもらえる職員さんがいらっしゃるということなんで、それをいかに、みんなの力を束ねて集中的にやれるか、それをスピード感持ってやれるかという、私は組織づくりというのも必要だろうというふうに思って質問をいたしました。

では、3番目の質問行きます。市庁舎と総合的体育施設についてであります。

この市庁舎の件に関しては、合併協定書の取り扱いに対して、大変いろんなというか、市長の思いもあると思いますけれども、合併協定書の拘束力といいますか、そういうのがどうだろうかというのを実は調べました。法的には全然責任はありませんよと。でも、特段の理由もなく変更するということは、これは首長が変えることによって政治的に責任が発生しますよというふうに書いてあります。でも、それを変えることに関しては、議会もそれなりの理由をつけて変更することもできますよということを書いています。

合併協定書の中の項目の中に、これは総合計画の中に織り込んでいってますよとか、これは条例をつくりましたとかいうのもあります。それ以外の分が実は協定書の中にまだ残った状況になっております。その中の1つがやっぱり本庁・支所方式だというのは、場所は条例にありますけど、方式というのは実はどこにも入っておりません。

私はこれはどれぐらい拘束力があるのかってずっと考えよったんですが、通常この協定書の中に入ってる項目を計画に持っていきますと、建設計画は10年だったと思うんですが、10年で計画が終わるということであれば、この拘束力は10年で終わりなのかなというふうに僕は感じることもあります。

それから多分、当初のこの合併協定書をつくるときの、この人口減少がこれだけ加速してるかというのは予測されたのかなというふうに思っております。

そういった意味では、私はここの一番最後にあるんですが、特段の理由もなくじゃなくて、特段の理由があったら変えてもいいんだと書いてあるんで、私はこれは余り関係ないんやというふうに私は最近理解をしております。

ですから市長がこの合併協定書を尊重するということが大変いいこと、いいことといたしますか、先輩方が決められたことに関しては、それだけの配慮をしますよという気持ちだろうと思うんですが、私はそういった意味であると、私は余り特段の理由をつければ関係ないのかなと思うんですが、市長どうですか。

○議長（手嶋源五君） 市長。

○市長（森田俊介君） 合併協定書、特に今回、庁舎整備にかかわることで議会のほうで特別委員会のほうでいろいろと議論がなされた。その中で、合併協定書と違う形の考え方もしたらどうかという結論が出た。それをいきなり来られたときに、私は、私どもの3案、3つ出してる案については、あくまでも合併協定書を尊重した形の中で案を出しております。合併協定書については、法的には確かに拘束力ございません。ただ、私、ここ

に合併協定書持っておりますけども、その合併当時、多くの方が議論をしてですよ、こういう形にまとめられた。おまけに議会の代表者のサインもございます。そういったものを何も議論なしに変更するというのがどうなのかということをお願いしたわけです。

確かに経緯がたてば、時間がたてば、そのときの状況と違って来る状況出てまいります。それを考えることにやぶさかではない。しかし、協定書というものがあるとするならば、まずその議論をして、そしてその中である一定の結論を出して、そして庁舎の問題に導いていくというのが本来の筋ではないですかということを申し上げさせていただいたわけです。

それから逆に、じゃあ今から、庁舎の今、市民会議でいろんな検討をしていただいております。その中でいろんな問題が出てきたとします。そして3案以外の形、合併協定書と違う形が市民会議から提案されて、私どももそれがいいなという話になってきたとするならば、逆に私どものほうから議会のほうに協定書がこうなってますけれどもどうですかという話をさせていただきなきゃならんわけです。

そういうことで、合併協定書というのはやはり確かに法的拘束力はないにしても、多くの皆さんが合併当時に議論をしてつくられたものです。ですから、それほどやっぱり重みのあるものだということを私は思っておりますので、そういうことを申し上げさせていただいたということでもあります。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） ちょっと私も市長の思いをちょっと誤解してるところがあったような今のあれなんで、そういった意味では、やっぱり市長が言われるとおりでらうというふうに私も思っております。やっぱり協議をした結果がそういう形で残ってるのであれば、何らかの形で協議をしながら、今後どうするかということを探索して、まずそこからスタートで、じゃあ庁舎をどうするかという話になるのかなというふうには思いますけれども。

いかんせん、同時進行とかいうのがありますので、なかなか厳しいところがあるかというふうに思いますけども、そういった形でやるべきだろうというふうに私は思いますが、もう実は庁舎も総合的体育施設も、もう早急に判断をしなくちゃいけない状況になってきているかと思えます。

先日、財政見通しを出していただきました。私は60億円、60億円の120億円の事業をやりながら、合併特例債が70億円で、基金を40億円取り壊してという財政の一番最後のやつですかね、そういった形がありましたけれども、そんな中でいくと、全員協議会だったと思うんですが、特別委員会ですか、どっちかわからないですが、基金のあり方、基金の持ち方は今後どうなのかなというときが。一般的には災害が10億円で、2年分の20億円という話と、こうあって、40億円ぐらいあれば大体いいんじゃないかなというふうなことがありましたけれども、この人口減少とか、高齢化とか、そういった最近厳しい状況にもあり

ますし。

私がもう1つあるのは、ここ何年か長寿命化をずっとやってきましたけども、市道の橋の問題、市道の橋の耐久性の問題というのは、もう戦後70年と言われてる状況の中で、もう50年、60年の橋が市道はあるかというふうに思います。それはもうどうしても建てかえて、かけかえをする状況にあるかだと思います。そうなると、一挙に来ると大変なことになるんですが、それを来ると40億円ではもう全然足りないような気が予測を僕はしました。倍でも80億円でも、100億円ぐらい本当は持つとかなないと、橋が来たときには大変だなという気が私はしてるんですが。

そういったことを予測を考えると、いろんな予測があると思うんですが、その予測を踏まえた物の考え方というか、物の大きさとか何とかを考えていかないと、僕は10年後、20年後の朝倉市民に責任がとれないような気がします。それは予測されてなかったのかということじゃなくて、もう現実こういうふうになってきとったやんかと。これ予測される事項に入っとったはずだ、想定外じゃないよ、これはと言われたときには、私は額的な問題ですよ、額的な問題を出すときには、何か判断するような材料があるのに、おまえたちは判断ミスをしたのかと言われそうな気が今してます。

そういった意味で、私は余計持つべきだろうと思うんですが、総務財政課長どうでしょうか、僕は80億円でも、100億円でも持つとかなないと、今後朝倉市のためには厳しいのかなと思ってんですが、私の思いですが、いかがですか。

○議長（手嶋源五君） 総務財政課長。

○総務財政課長（堀内善文君） 40億円の財政調整基金の残高の問題だと思いますけど、40億円を申しあげましたのは、議員言われますように、災害の2回分で20億円、それから予算編成上の10億円、予備を含めて10億円の40億円がもう最低という形で申しあげたと思います。それぐらいあればここ10年は大丈夫かなという形で申しあげまして、確かに言われますように、いろんな財政需要は出てきますが、それを全て財政調整基金ということにもならないかと思えます。これはもう通常経費の中でやりくりといたしますか、税金であるとか、交付税とか、一般財源の中でも当然あることでありますので、財政調整基金は最低はそれぐらいという形で、言われるように多ければ多いのは、それは当然いいことでありまして、私どもの財政を預かる身としても、いろんなことは想定しながら、この40億円が今後は50億円必要になるということになる場合もあるかもしれませんが、そういうことは考えながら財政運営をしていこうと思っております。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 総務財政課長としてはそういう答弁じゃないといかんのかなというふうに思うんですが、先ほど言いました予測される現象の中で、この体育施設と庁舎という問題は、お金に関する事、それがイコール多分規模に関する事になるかというふうには思います。少子化の中、それから人口減少とか。



それから、これだけ少子高齢化の中でいくと、人口が減っても仕事量が減らないのかなというふうには思うんですが、実は仕事をこなすスピードは、以前から比べると相当上がってるはずです。以前、例えば20年前に同じ仕事量をしている人が、1日かかったことが、今の状況の中でいくと、多分半分で仕事は終わってると思います。それは手書きであるとか、いろんな意味を使ったときに、パソコンというのはうまくできてるんで、そういった意味では僕は仕事の時間というか、量は変わらなくても時間というのは短縮されてるような気がします。

それから、民間委託も多分相当今からやっていかなくちゃいけない状況にあるかと思えます。そういった中でいくと、職員の人口が減ることによって職員の減というのは、もう免れない現状になると思います。そうせざるを得んだらうと思います。でも、それをスムーズにいくために、片や電子機器を使ったというか、パソコンを使った処理を開発してくべきだらうというふうに思います。

ですから、そういうことを踏まえたとき、それから財政の問題を踏まえたときに、規模的なことを考えるのが私は身の丈だらうと思うんですが、それを身の丈と僕は言うと思います、思ってるんですが、副市長どうですか、私の身の丈は。

○議長（手嶋源五君） 副市長。

○副市長（片山 潔君） 皆さん、それぞれに思うところの身の丈というのは違うところもあるかもしれません。私としての考えを申し上げますと、当然ながら予算の制約というものがございまして、実際の住民サービスを提供できるかという目的が果たせて、なおかつ必要最小限のコストというのが一般的かもしれませんけども、そういう考えを持っております。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員。

○12番（桑野博明君） 今後議会のほうも特別委員会の中でこの問題に関しては中間報告なり、どうこうという形であるかというふうには思いますけれども、ぜひそういったところも踏まえたところ、それから先ほど最初に市長の答弁でありました合併協定書のあり方に、取り扱いについても、やっぱりこれは議会としてもやるべきことはやらなくちゃいけないというふうには思っております。その辺を踏まえて、10年後、20年後の朝倉市が、あのとき判断してよかったねというような形の中でスムーズにいけばというふうに思っております。

それから、議場におられる3部長を初め、職員の方、退職される方、大変お疲れさまでした。本来ならばお一人お一人から議場でコメントをいただきたいと思いましたが、時間の都合上、きょうは省略させていただきますが、1つだけ、実は失敗は成功のもとと言って、実はなかなか現職中は自分の失敗を部下に言うことができなかつたというふうには思っております。ぜひ贈る言葉は、僕は失敗談をしてあげていただきたいなと思っております。自分はこんな失敗したんで、こういうふうだったということを書いていただければ、現職

中はなかなか言えないと思います、失敗談は。でも、言われるときには、実はこんな俺、失敗したとよ、昔こうやったとよということだけ言って、これは気をつけとかないかん、これはどうこうということ、プラスじゃなくて、失敗したことを実は教えていただきたいというふうに思っております。それが私は今後の後輩に対する贈る言葉になるんじゃないかなというふうに思っておりますので、ぜひそういったお話をさせていただきたいと思っております。

これで私の一般質問を終わります。

○議長（手嶋源五君） 12番桑野博明議員の質問は終わりました。

10分間休憩いたします。

午前10時35分休憩